

銘柄分析レポート：喫茶店、みやげ物屋、塾、葬儀屋

1. はじめに

少し長くなりますが、ピーター・タスカ著『日本は甦るか』から引用します。

最近のおもしろい現象の 1 つは、日本の店頭市場に上場している企業の中に、いままでは普通のビジネスとみなされてなかった業種の企業があることだ。たとえば、喫茶店、みやげ物屋、塾、葬儀屋などである。こういう企業が上場するやいなや、たちまち 200～300 億円の時価総額になる。たぶん、企業家にとってもっとも確実な儲け方は、近代経営の原理を、それをまだ経験したことのない業種に導入することだ。

この本は 1994 年に書かれたものですが、今、読み返しても、十分に通用する内容です。

私は街を歩きながら「未だ、近代経営の原理が導入されていない業種はないか」を常にチェックしています。斜陽産業であれば、なおさら好ましいです。

見つければ、その業種に「近代経営の原理が導入されている上場企業」がないかを調べます。常に存在するとは限らないものの、そのような作業を繰り返していれば、いつかは網にかかってくる。

もちろん、失敗もありますが、自分自身の成功事例は次の 3 銘柄です。

- ニトリ（9843）・・・ 家具のチェーン店
- ラウンドワン（4680）・・・ ボウリング場の経営
- センチュリー 21・ジャパン（8898）・・・ 不動産店の FC 本部

今回の銘柄分析レポートでは、この本でも例示されていた「喫茶店、みやげ物屋、塾、葬儀屋」より 1 銘柄ずつ分析してみます。